



Taka Ishii

Gallery

セル・セルパス&ラフィック・グレイス「clockwork」

会期：2026年3月21日（土） - 4月25日（土）

会場：タカ・イシイギャラリー 京橋

オープニング・レセプション：3月21日（土）17:00 - 19:00

タカ・イシイギャラリー 京橋は3月21日（土）から4月25日（土）まで、セル・セルパスとラフィック・グレイスによる二人展を開催いたします。セルパスは別の作家やパフォーマーを招いた展示をしばしばおこなっていますが、グレイスとのコラボレーションは2023年にニューヨークのスイス・インスティテュートで開催された二人展に続き、本展が二度目となります。

今回の展示では、セルパスの立体作品とペインティングの新作、そしてグレイスの写真作品とインスタレーションが発表されます。展示の構想は、使い古されたパネルや捨てられた資材を積んだ作業用トラックを街中で見かけた作家の経験に基づいています。それらの資材は時にバルコニーから投げ入れられたようにも見え、どこから運ばれてきたのか、どこへ運ばれていくのか、そして作業員の一日とはどんなものなのかといった疑問を引き起こしました。

セル・セルパスの制作活動は、彫刻、ペインティング、詩、パフォーマンスというようにメディアを横断し、カテゴリーを避けるかのように展開します。近年では、街路に廃棄された物やファウンド・オブジェを集めて立体作品をつくり、物質に手を加えて再組成することで既製品の伝統を改変しようとしています。廃品のもつ開口部や接続部、そして重力を利用しながら彼女は一時的な立体作品をつくりあげていきます。本展では使用済みの日用品を含む物品が日本で収集され、彼女の手によって新たに再構成されています。

壁に吊るされた巨大な人物ペインティングでは、特に人間の胴体が描かれますが、AI生成による人体のイメージが元になっています。データから生み出されるそれらのイメージは時に歪んでいたり、ノイズが入るように断裂していたり、どこかで使われたものの断片が寄せ集められてできたような形を呈しています。この点においてそれらもまた、セルパスが立体作品で扱う素材の性質に通ずるものがあると考えられます。

セルパスは、キャンバスの絵の具が乾かないうちに上から別のキャンバスを重ねて押しえつけ、一緒にロール状に巻いたのち、また別々に離すという工程を踏みます。ここでは一方の面上から他方の画面へ絵の具が移り、跡が現れます。画面の痕跡は複写のように残されていきますが、全く同じ図像の反復があらわれることはありません。そのわずかに変化しながら似た事象が繰り返し発生するという現象は、時間の推移や人の手の介入によってあらゆる物事が変化していくさまを追随するものです。

ラフィック・グレイスは写真や映像、立体、インスタレーションを通じて、構造、物語、記憶などの関係性について探求しています。彼の作品は、価値システムが我々の知覚を形づくる過程や、意味というものが物体やイメージによって付与され、固定化され、内包される過程について思索します。

「二次元の彫刻」として構想される彼の写真作品においては、イメージは単なる記録ではなく、空間的かつ彫刻的な場となります。関心の対象は、自律的な存在としての物体そのものから、それらを組織している関係性

や緊張感、そして階層へと推移していきます。

本展の会場に置かれた物体の数々は本来的な文脈から外され、わずかに再構成されています。微妙な歪みと転位の作用を受けて見慣れた形は不安定なものになり、日常反復の中で常態化しているものへの再考を促します。既存のエレメントを用い、解体し、新たな意味づけをするという過程から生まれる作品群は、心理的かつ社会的にも、私たちが世界をどのように認知し解釈するかという構造を浮き彫りにしているといえるでしょう。

セル・セルパスは1995年、ロサンゼルス生まれ。2017年にコロンビア大学（ニューヨーク）で芸術学士号を取得し、現在はニューヨーク、パリ、トビリシを主な拠点として活動。

近年の個展に「Of my life」クンストハレ・バーゼル（2025年）、ホイットニー・ビエンナーレ 2024「Even Better Than the Real Thing」ホイットニー美術館（ニューヨーク）、「I fear (J'ai peur)」ブルス・ドゥ・コメルス、ピノーコレクション（パリ、2023年）、「Hall」スイス・インスティテュート（ニューヨーク、2023年）、「Against Attachment」Ludlow 38（ニューヨーク、2019年）、「you were created to be so young (self-harm and exercise)」LUMA Westbau（チューリッヒ、2018年）などがある。主なグループ展は「The Gatherers」MoMA PS1（ニューヨーク、2025年）、「The Uncanny House」Museum Casa di Goethe（ローマ、2024年）、「AGORA. Second Episode」ジュネーブ近現代美術館（2023年）など。2019年にはPrix Matsutani Occidentを受賞、2023年にはReiffers Art Initiatives prizeを受賞した。また作品はCollezione De Iorio（トレント/ヴェローナ）、Domus Collection（北京）、パイエラー財団（リーエン/バーゼル）、ハマー美術館（ロサンゼルス）、LUMA Foundation（チューリッヒ）、ピノーコレクション（パリ）などに収蔵されている。

ラフィック・グレイスは1997年、エジプト生まれ。2020年にニューヨーク大学でPhotography and Imaging（写真とイメージング）と美術史の芸術学士号を取得。

主な個展に「The Longest Sleep」Galerie Balice Hertling（パリ、2024年）、「Closer」Galerie Balice Hertling（パリ、2021年）など。主なグループ展は第18回イスタンブール・ビエンナーレ「The Three-Legged Cat」（2025年）、「Hall」スイス・インスティテュート（ニューヨーク、2023年）、「Louvre Looks」ルーブル美術館（パリ、2023年）など。作品はホイットニー美術館（ニューヨーク）、ピノーコレクション（パリ）、ルイ・ヴィトン財団（パリ）、Lafayette Anticipations Collection（パリ）、Zabludowicz Collection（ロンドン）などに収蔵されている。

本展はオリヴィエ・ルノー・クレモンとの協同企画により開催されます。

是非、貴誌・貴社にてご紹介くださいますようよろしくお願いいたします。掲載用写真の貸出など、ご質問がございましたら下記までお問い合わせください。

タカ・イシイギャラリー 京橋 展覧会担当：上松エリサ プレス担当：生井未沙 (press@takaishiigallery.com)

Seiya Nakamura 2.24 Inc. 田邊友里恵 (yurie@seyianakamura224.com)、尾崎悠一郎 (yuichiro@seyianakamura224.com)

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-1 TODA BUILDING 3F tel: +81 (0) 3 6434 7010 fax: +81 (0) 3 6434 7917

e-mail: tig@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com

営業時間：11:00-19:00 定休日：日・月・祝祭日



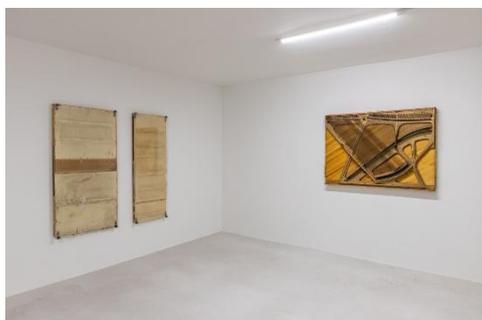
Left: Ser Serpas, "Untitled", 2026, oil on canvas, 302.3 x 182.9 cm © Ser Serpas. Courtesy of O.R_C. Inc.



Right: Rafik Greiss, "Bitter to be present", 2025, plaster plates, patinated, 215 x 482 x 1.8 cm (Install at SIMIAN, Copenhagen, Denmark, curated by Fabian Flückiger) © Rafik Greiss.



Ser Serpas, "taken through back entrances subtle fate matching matte thing soiled...", 2024, found objects, plastic tape, oil paint. Installation view at Whitney Museum of American Art, New York. From the 2024 Whitney Biennial.



18th Edition of the Istanbul Biennial; The Three Legged Cat, curated by Christine Tohme, Istanbul, Turkey.